

この問題において特に誤答が多かったのは、条件①a または b のいずれか一方しか満たしていないもの（条件②、③を満たしているかは不問）で、広島県では 45.8%であった。（全国 50.2%）

誤答例 1 は

「目を細めながら明るい声」という表情や声の様子について取り上げることができていない。

誤答例 2 は

〈話した内容〉にある傍線部の理由を取り上げることができていない。

〔中田とよさんへのインタビューの様子〕

〔話した内容〕

あやとりのコーナーに参加してよかったわ。それはね、一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれたからなの。みなさんも準備が大変だったことでしょうね。町で会ったときにはいつでも声をかけてください。今度の案内も楽しみにして待っていますね。



中田とよさん

〔表情や声の調子〕

- ・目を細めている
- ・明るい声

〔条件〕

○ 部についての理由が分かる言葉を、〈話した内容〉の中から「」を使って取り出し、その言葉と〈表情や声の調子〉の中の内容を合わせて、「一文で書くこと。」

○ 書き出しに続けて、四十文字以上、七十文字以内で書くこと。なお、書き出しの言葉は字にふくむ。

誤答例 ②

（また参加された中田とよさんは、「みなさんも準備が大変だったでしょうね」と、目を細めながら明るい声で言ってくれました。（60字）

誤答例 ①

（また、参加された中田とよさんは、「一年生のみんなに様々な形を教えてあげたら喜んでくれたから参加してよかった」と、言ってくれました。（66字）

誤答例①を見ると、〈話した内容〉にある傍線部の理由は取り上げているものの、中田とよさんの〈表情や声の調子〉について取り上げることができていないことが分かる。また、誤答例②では、中田とよさんの〈表情や声の調子〉について取り上げることはできているが、〈話した内容〉にある「あやとりのコーナーに参加してよかったわ。」の理由として適切な文を取り上げることができていないことが分かる。

国立教育政策研究所の「平成27年度 全国学力・学習状況調査報告書」では、関連する問題として、平成 25 年度【小学校】国語B²の「目的や必要に応じ、必要な内容を適切に引用したり複数の内容を関係付けたりしながら書くこと」が挙げられているが、広島県の正答率は 30.5%（全国 26.2%）であった。また、今年度の「基礎・基本」定着状況調査の小学校国語タイプⅡでも五2において「情報の取り出し・情報を関係付けた記述」の問題を出題しているが、ここでも情報の関係付けに課題があることが明らかとなっている。

これらのことから、依然として、目的や意図に応じ、取材した内容や複数の情報を整理しながら関係付けて書くことには課題があると考えられる。

指導のポイント

○ 情報の収集だけでなく、整理・分析を充実させましょう。

小学校学習指導要領解説国語編には、「B書くこと」の言語活動例として、第3学年及び第4学年では「ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。」、第5学年及び第6学年では「イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。」が示されています。

このような言語活動を通して指導事項を指導する際、収集した複数の資料から取り出した情報をそのまま羅列して書かせるのではなく、目的や必要に応じて取り出した情報を表や思考ツールを活用して整理・分析させ、どの情報とどの情報を関係付けるとより効果的に伝えることができるか、また、それらを関係付けた文章の書き方はどのようにすればよいのかについて考えさせる学習を仕組むことが必要です。

また、国立教育政策研究所の「平成 27 年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例」には、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く指導事例が掲載されています。それらも参考にして授業改善を進めていきましょう。